

今年だからこそ語ります！

誰もが心の中で思っているが語られない・語ることが許されていないような災害時の対策・活動を、東日本大震災が発生し大津波により多くの方々が多くなった2011年だからこそ、今年の締めくくりとして、あえて語らせていただき、このことをみんなで考えてもらいたいと思います。

【災害時要援護者対策】

◎災害時要援護者とは

必要な情報を迅速かつ正確に把握し、災害から自らを守るために安全な場所に避難するなどの、災害時の一連の行動をとるのに支援を要する人々（高齢者、障害者、乳幼児、妊婦等）。

◎災害時要援護者対策とは

内閣府「防災情報のページ」では、ここ数年の風水害や豪雪において、死者の大半が**65歳以上の高齢者**となっているなど、災害時要援護者についての対策は災害時において人的被害を少なくしていくための重要課題としています。

上記は平成16年に発生した一連の災害で、犠牲者の半数以上が高齢者であったことから、高齢者等の災害時要援護者の避難支援などについて、内閣府が検討を進め、「災害時要援護者の避難支援ガイドライン」を取りまとめたものです。

◎ここでちょっと考えてみましょう！

そもそも「平成16年に発生した一連の災害」とは何でしょう？

それは「新潟・福島豪雨、福井豪雨、台風23号豪雨による円山川の災害、台風21号による三重県の土砂災害、台風16号（瀬戸内海沿岸の高潮）、台風23号（高知県菜生海岸被災）」等の水害だけです。これらを**全国一律・すべての災害対象と捉えて良いのでしょうか？**

現在の「災害時要援護者対策のガイドライン」は、やはり水害時の対応と言っても過言ではないでしょう。そして「災害時要援護者」となりうる方々を「お客様扱い」しているようなガイドラインになっています。**本当にこれで災害時に要援護者を救い、共に生き残ることはできるのでしょうか？**確かに災害時要援護者の対策は必要なことです。しかし災害時における本当の「要援護者」は誰かと考えれば、災害により**健康者であってもケガをすれば「誰もが要援護者」になります。**ですから誰もが災害時にケガをしないような対策を普段から講じておく必要があるのです。これは阪神淡路大震災

による死亡者全体の9割が発災後15分以内に亡くなっている（即死）ことから



も考えられることで、生き残らなければ次のステップに進めないことは周知の事実なのです。東日本大震災では、226人の消防団員が住民の避難誘導などの際、津波に襲われ死亡したという事実があります。この事実から目を背けてはいけません。助ける側の人は正義の味方であったとしても決してスーパーマンではないのです。絶対に「**共倒れになってはいけません**」

◎ここからが大切なことです。よくお聞きください！

「災害時要援護者となりうる方々」も日頃から自分でやれる対策や準備が大切だということです。全国的には要援護者対策として「誰かが誰かを助けに行く」と決めている地域が多いようです。その場合は「老老避難・老老支援」が大半であり、避難対策は困難である場合が多いとされています。「老若避難・老若支援」の地域では「助けてもらう側」は地域内にいる場合は多いでしょうが、「助ける側」は仕事や学校に行っている場合が多いのです。どうしても対策に矛盾があるのは事実なのです。それら「老老・老若」の両方のできる限り上手く対策を機能させるには「**助けられる側がやれることをやる**」しかないのです。

◎「やれることをやる」とは

要援護者支援は、助けるほうの理解と協力だけではなく、助けられる側の理解と協力も不可欠。とくに高齢者、障害者など自身と共にその家族などにきちんと趣旨を納得してもらわなければなりません。寝たきり高齢者、独居老人、難病患者などそれぞれにそれぞれの事情があります。ですから各事情を良く考慮して対応する必要があります。災害時要援護者は「災害時要援護者避難支援計画」により、発災時には近隣の民生委員、児童委員、福祉委員などによる安否確認、避難支援を考えています。しかし、実際には道路が寸断され、火災が発生している中で彼らが駆け付けることは困難を極めます。そこで、自主防災組織や町内会などに協力を要請しますが、そのたびに「個人情報保護法」の壁に阻まれ要援護者名簿が開示されないことがネックとなっています。でも、向こう三軒両隣であれば、そして、**助けられる側の理解**が得られれば、個人情報保護法の垣根を乗り越えることも可能です。災害時は誰もが助けられる側になる可能性があります。同じ時代、同じ地域で生きる仲間として「**お互いさまの心でさりげなく、気持ちよく、助けたり助けられたりすること**」それこそが人としての作法なのではないでしょうか。そのためには日頃からの「**あいさつ**」が不可欠です。グリーンシティには「**あいさつの輪**」が広がっています。皆様のご協力で北海道から沖縄まで全国的に「あいさつの輪」が拡大しています。

来年もグリーンシティから「あいさつの発信」をしましょう。

